

## ★海運・造船業界の求人動向（2016年5月現在）

### 【全体の動き】

長引く市況低迷と円高により、新年度以降は求人が減少すると思われたが、慢性的な人材不足感は継続しており、依然として企業の採用意欲は高い。

求人内容がより具体的、また採用基準が明確になっている点が最近の傾向である。また、選考から内定までの採用プロセスが早い傾向も見受けられる。企業が優秀な人材をいち早く確保したいという気持ちの表れであろう。

### 【営業系-船舶運航管理、用船など】

先月同様、商社系海運会社や仲介業者（シップブローカー）での Post Fixture 業務（用船契約の管理、用船料の支払いの計算、入出港や荷役に関する様々な手続きなど）の求人が活発。実務経験5年～10年程度の場合、英語力が問われる（目安 TOEIC800点以上）。

低迷が続くバルカーからタンカーへのシフトチェンジを背景に、タンカー経験を必要とする求人が出ている。営業経験（集荷・荷主対応、運航管理、用船など）のみならず、タンカー業界内での人脈も期待されている。また、管理職や海外勤務の求人も目立ってきている。船舶運航管理・用船経験20年以上に加え、プレイングマネージャーとしての実務のほか、若手社員の指導・育成、また組織強化を担える人材が求められている。

### 【海技系-工務・海務監督】

船舶管理会社（船主／船社系列）、商社系海運会社からの求人が増加しており、なかでも特に工務監督の求人が多い。就航船の工務監督業務のほか、新造船建造に伴うテクニカル業務全般の求人も継続して需要が高い。海務監督は、緊急度の高い求人は充足されつつあるが、瀬戸内エリアではまだ不足している。また重量物経験（積み付けプラン作成など）を持つ監督の求人も充足には至っていない。

企業からは経験者のニーズが強まっている点が特徴的といえる。

### 【その他-船級、外資メーカーなど】

船級での図面承認（機関・船体共に）のほか、電気系統の経験など、専門性を求める求人もある。外資系船用機器メーカーからはセールスエンジニア求人が出ている。

情報提供・キャプラン株式会社

東京紹介チーム

03-3497-9335